



ILSI

International Life
Sciences Institute
Japan

International Life Sciences Institute (ILSI) の紹介

ILSI Japan バイオテクノロジー研究会
会長 加村 澄子

ILSIの活動目的と国際ネットワーク



ILSI at a Glance

- 15 entities worldwide
 - 70 scientific publications
 - 152 workshops, conferences, & scientific meetings
 - 38,000 science videos on YouTube
 - 103 employees
- (2019)

ILSI

ILSI (International Life Sciences Institute) は、**1978年** アメリカ (ワシントンDC) で設立された**非営利団体**

ILSIの理念：**Benefit Society** (社会に資する) **健康、栄養、安全、環境**に関わる課題を科学的視点で基礎研究から実践活動まで。

グローバルな非営利団体。ワシントンの本部と世界の**13の独立した支部**で活動。**世界で約450社** (2020年) の企業会員から構成。

情報の提供、意見具申を実施。科学に基づく国際的な行政の枠組みづくりに貢献。*)

*) 具体例：CODEX

ILSI Japan

本部設立3年後に最初に設立された海外支部(**1981年**)

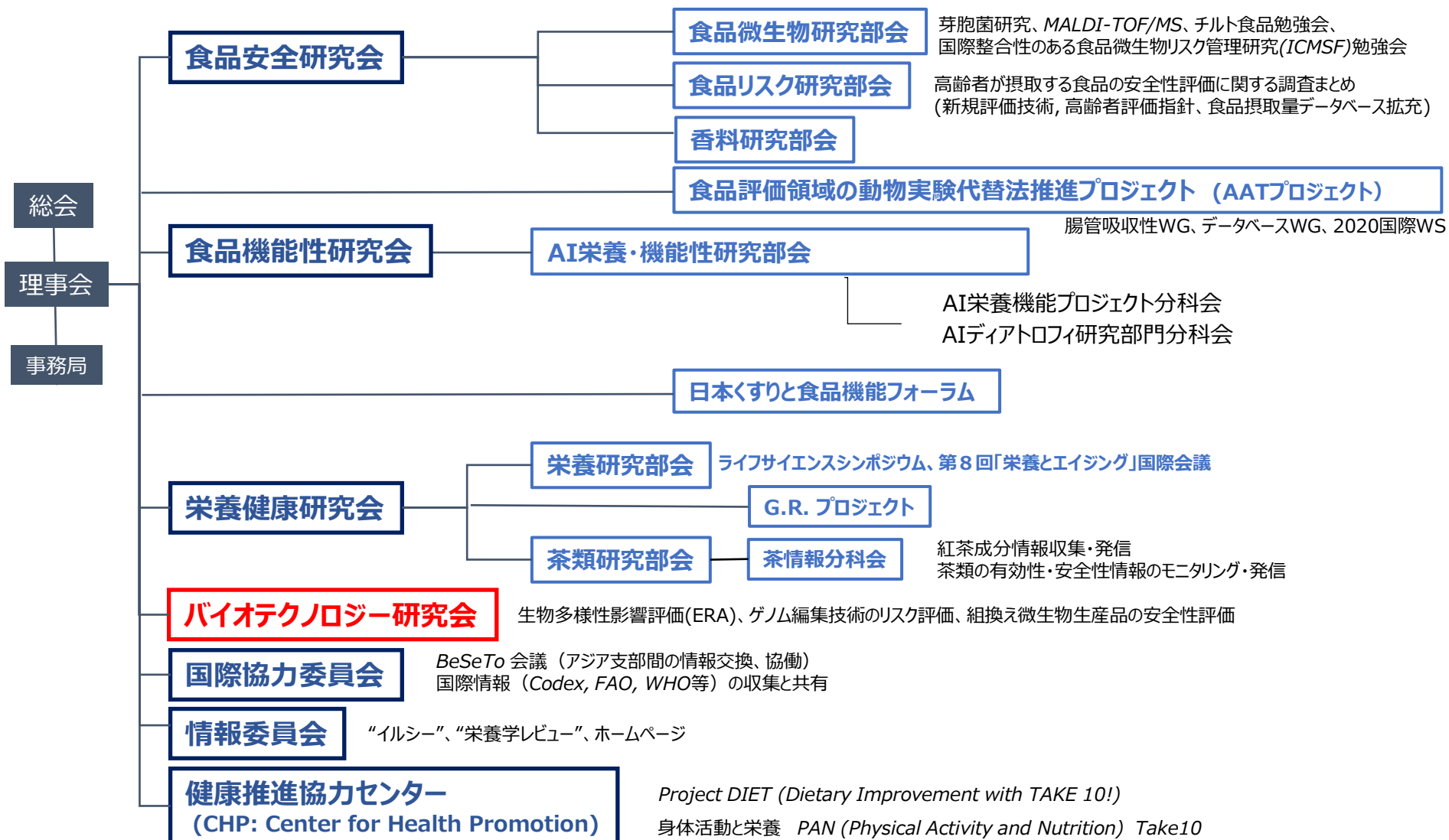
健康、栄養、安全、環境に関わる課題解決を実践。研究会、部会、委員会を中心に研究、調査活動を国内外で実施。

食品リスク研究部会、食品微生物研究部会、栄養研究部会、バイオテクノロジー研究会、国際協力委員会、CHPなどの活動。

活動の成果は、適時、報告会、セミナー、シンポジウム、モノグラフ、報文等で発表。

ILSI Japanの組織

51会員企業（4研究会、2委員会、1センター、1プロジェクト、1フォーラム）





バイオテクノロジー研究会の目的

バイオテクノロジー応用食品・作物等の安全性・活用に関する調査研究を行い、国際的な調和を図りつつ、科学的な視点で情報提供

- 遺伝子組換え作物の環境安全性評価 (ERA プロジェクト)
- ゲノム編集技術の研究・開発の国内外の動向
- 導入遺伝子により産生されるタンパク質の安全性評価
- 遺伝子組換え技術を利用して生産された高度精製品 (食品、添加物) の安全性評価
- 遺伝子組換え食品の表示を担保する分析法 等

ILSI Japan バイオテクノロジー研究会のこれまでの歩み

ー ワークショップ、勉強会： **1988年～2005年** ー

	開催年	カテゴリー				
		ERA	Food/Feed	Detection method	Labeling	NBT
ILSIバイオテクノロジー国際セミナー ー新技術利用発酵食品開発の基礎と社会的評価	1988		○			
「バイオ食品-社会的受容に向けてー」国際シンポジウム	1993		○			
ILSI Japanバイオ討論会 歩きはじめたバイオ食品 バイオ作物利用の立場から	1996		○			
遺伝子組換え食品の表示のあり方(食品表示懇談会遺伝子組換え食品部会報告)	1999				○	
バイオテクノロジーと食品安全シンポジウム: <u>FAO/WHO Symposium on Biotechnology and Food Safety</u> Codex 部会開催時	2000		○	食品安全性評価		
ILSI Japanシンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2000		○			
シンポジウム 遺伝子組換え食品 どのように表示されるのか①	2001				○	
シンポジウム 遺伝子組換え食品 どのように表示するのか②	2001				○	
シンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2001		○			
ILSI Japanシンポジウム 植物バイオテクノロジーの将来	2001		○			
ILSI Japanシンポジウム 遺伝子組換え食品 安全性を確認するためにどんな試験をしているのか	2001		○			
ILSI HESI/ILSI Japan タンパク質の <u>アレルギー誘発性</u> に関するワークショップ	2003		○			
「食物アレルギー」ワークショップ	2004		○			
遺伝子組換え作物 <u>検知技術</u> 国際ワークショップ	2004			○		
遺伝子組換えによって栄養改善された食品および飼料の栄養ならびに安全性評価 ワークショップ	2005		○			

LSI Japanバイオテクノロジー研究会のこれまでの歩み

—ワークショップ、勉強会：2006年～2020年—

	開催年	カテゴリー				
		ERA	Food/Feed	Detection method	Labeling	NBT
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2006	○				
第2回遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2007	○				
ポストISOワークショップ「GMO検知技術の国際動向」	2010			○		
日韓GERAシンポジウム「低暴露時でのGM植物の環境リスク評価」	2011	○				
遺伝子組み換え作物の環境安全性評価に関する国際的動向	2012	○				
輸入目的の遺伝子組換え作物の環境安全性評価 <u>国際ワークショップ</u>	2013	○				
植物の新育種技術に関するワークショップ：規制面からの考察および検討	2013					○
タンパク質のアレルギー誘発性評価に関する国内外最新の動き	2014		○			
NBTに関する国際動向のワークショップ開催	2014					○
農業分野におけるゲノム編集技術利用に関するワークショップ	2015		ERA			○
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価のあり方に関する <u>国際ワークショップ</u>	2016	○				
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価のあり方に関するフォローアップ勉強会	2016	○				
日本並びに海外におけるゲノム編集技術の農業分野への利用-現状と未来	2017					○
遺伝子組換え食品等の安全性評価における次世代シーケンサーの活用に関する勉強会	2017			○		
遺伝子組換え植物の生物多様性影響に関する勉強会	2018	○				
遺伝子組換え植物の生物多様性影響評価に関する <u>国際ワークショップ</u>	2018	○				
高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方に関するワークショップ	2019		○			
「日本におけるGM作物のERAの歴史」林健一先生記念講演	2019	○				
ISO/TC34/SC16 総会ポスト国際ワークショップ	2019			○	○	
遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価に関する現状と展望 遺伝子組換え作物のデータトランスポータビリティについて	2020	○				

ゲノム編集